

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：千葉大学人文公共学府人文科学専攻

学年：修士 2 年

留学先大学：Monash College

現在の学期：Monash English (Module 4, 10 月開始)

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	13:00-17:15 Monash English Module 4
火	13:00-17:15 Monash English Module 4
水	13:00-17:15 Monash English Module 4
木	13:00-17:15 Monash English Module 4
金	13:00-17:15 Monash English Module 4
土・日	

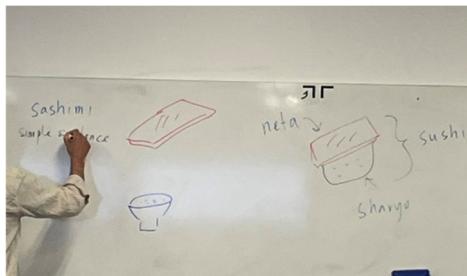
履修科目や近況について

履修科目

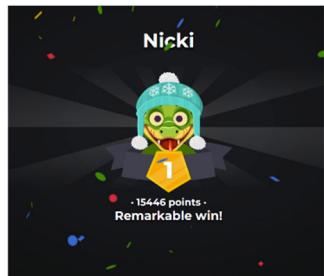
概要：現在、Monash English の Module 4 を受講しています。私の場合、このコースは Monash University の 2026 年度の Semester1 の受講要件です。期間は 2025 年 10 月 13 日から始まる 10 週間で、今回は前半の 5 週間についてまとめます。

シラバス：このコースでは英語のリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの 4 技能を総合的に学び、大学への円滑な移行をサポートすることを目的としています。評価基準は成績のみで行われ、各技能に応じたテストやその他の評価項目が設定されています。リーディングとリスニングはテストがそれぞれ 3 回のみです。ライティングには数週間をかけて完成するエッセイと、時間制限のある短い英文作成が含まれます。スピーキングは、グループディスカッションと、教員との一対一のプレゼンテーションを通じて評価されます。受講生の専攻によって修了基準が異なり、私が該当する基準はおそらく最も低いものです。

授業内容：Week1 では、教室内のルール（教室では英語を話すなど）を設定し、成績に反映されない実力テストを受けました。Week2 以降は、幅広いテーマの講義を中心進め、小テストの対策を合わせて行いました。授業中には理解度を測るミニゲーム (Kahoot) も実施されます。ほとんど毎日、何かしらの課題が出されました。



寿司を題材とした文法説明



Kahoot 優勝時の画面

クラスの構成と学習環境：このクラスは教員 2 名と学生 34 名で構成されており、学生の 9 割が中国語話者です。授業では英語の使用が求められているものの、クラス内では中国語を話す場面も見られ、必ずしも英語学習に最適な環境とはいえません。私は中国語を母語としており、当初は中国語話者が集まるグループに座っていました。周囲の会話が学習に影響し、集中が難しい場面が多くありました。3 週目に教員に相談したところ、席の移動を提案されました。以降は英語使用を徹底している学生の近くに座ることで、より集中できる環境を確保しました。

英語の勉強：このコースでは 4 技能の向上を目指していますが、授業内容とリーディングとリスニングのテスト内容が直接的に結び付きにくい点や、授業内の配慮と実際の大学講義のギャップなど、学習上の課題を感じました。スピーキングについては、やや重視されていない印象があります。一方で、ライティングについては比較的手厚いサポートがあり、技能向上に少し期待できます。コースを通じて、授業環境と評価方法に対する適応力が求められることを実感しました。

課外活動：図書館のボランティアに応募し、講習会に参加しました。そこで Foundation year の学生や英語コースの異なる Module の学生と交流することができました。今後は既定の活動時間を満たし、修了証明書の取得を目指しています。課題との両立が必要ではありますが、可能な範囲で積極的に参加する予定です。

メルボルンでの生活

ホームステイ：この 10 週間はホームステイで過ごします。家から学校までの距離は徒歩と電車で約 1 時間かかります。これまで電車で通学した経験がなかったため、新鮮な経験です。家主はタイ出身とニュージーランド出身のご夫妻で、他に 2 人の学生も同じくホームステイしています。また、犬が 2 匹います。基本的には晩ごはんの後に、ゲーム (UNO, Scrabble, Monopoly など) をしながら英語を学んでいます。



ホームステイ先の 2 匹の犬



Scrabble の最終盤面

食事：週 5 回の授業があり、自炊する時間を確保するのが難しく、外食も高いため、ホームステイの一日三食付きのプランを選びました。朝食は基本的に食パンとシリアルですが、シリアルにどうしても慣れなかったです。そのため、ホストファミリーに相談し、ゆで卵に変えてもらいました。昼食は前日の夕食がそのままお弁当として提供されます。夕食は家族全員で食べるようになっています。食事は全体的に質素で、主食は基本的には米（タイ米）です。おかずの量が少ないため、野菜が不足しがちに感じることもあります。家にはりんご、みかん、バナナなどの果物が常備されており、自由に食べることができます。また、コーヒーやお茶も自由に飲むことができます。最近はビタミン補給のため、ビタミン入りのグミを摂るようにしています。外食は価格が高いため、控えていました。初めての外食は 11 月に入ってからでした。コーヒー や ジュース も 高価ですが、時々自分へのご褒美として買っています。



ローカルなジュース



フォー



ロブスター ロール

土日の過ごし方：土日も課題が出るため、近所の図書館や州立図書館で課題に取り組むことが多いです。時間のある時は、ウインドウショッピングすることもあります。日本とは異なる商品のラインナップを見るのが楽しく、良い気分転換になっています。ただし、こちらでは全体的に物価が高く感じるため、必要なもの以外はできるだけ購入しないようにしています。購入する場合は、現地でしか手に入らないものを優先しています。また、ホストファミリーと時間が合うときに日帰りの観光に連れて行ってもらうこともあります。車で移動するため、電車では行きにくい場所にも訪れるすることができます。洗濯は週に 1 回で、土日にすることが多いです。

慣れないこと：注意が必要だと感じるのは、天候と公共交通機関です。10 月のメルボルンは想定より寒い日が多く、服装の調整に苦労しました。また、「一日に四季がある」と言われるように天気の変化が非常に早いため、長袖の上着と折り畳み傘は必ず持ち歩くようにしています。公共交通機関については、電車の線路が複雑であるうえ、遅延や運休が日常的に発生するため、利用の際には行き先を慎重に確認する必要があります。バスでは停留所の案内がないことから、地図アプリを併用しつつ、慣れるまでは利用範囲が限られました。また、改札で IC カードをタップしたかを確認するために、駅員が急に車両に乗り込んでくることがあります。この点でも日本との違いを感じています。こうした経験を通じて、日本との交通環境の違いを強く意識するようになりました。